

相模湾根府川沿岸域にみられる地域の地滑り堆積物の特徴 Characteristic of submarine landslide deposit, observed and the Nebukawa coastal area

八木 雅俊^{1*}, 椎野紗和日¹, 坂本 泉¹
YAGI, Masatoshi^{1*}, Shiino Sawaka¹, SAKAMOTO, Izumi¹

¹ 東海大学大学院海洋学研究所

¹ Graduate School of oceanography, Tokai university

神奈川県根府川地域は箱根火山外輪山の山麓であり、海岸付近には急斜面が発達している。1923年に起きた関東大地震の直後、根府川地区では白糸川上流の箱根火山の外輪山を構成する山体である大同地区が崩壊し、土砂が山津波となって白糸川沿いに流れ下った。この山津波と同時に根府川駅の背後で地すべりが起こり、ホーム、駅舎、付近の住宅、列車を巻き込み海中までに達した。

本地域には海岸付近に分布する大根溶岩と、標高 60m 以上分布する根府川石溶岩が存在し、両層間に挟在する火山碎屑物層は下位の固結した硬い火山礫凝灰岩と上位に発達するロームや軽石によって構成されている。

本調査では、東海大学保有の SeaBat7125 型超高分解能測深機を用いた高精度海底地形調査及び潜水調査を行い、得られた地形的特徴から本地域をおそった土石流及び地すべり堆積物の形成機構の解明を行った。

地形的な特徴として、1) 海岸地形に平行に分布する粗い反射で特徴づけられるゾーン、2) 海岸線より沖に向かい舌状の広がり呈するゾーンに区分され、2) は 1) を切って沖に向かい分布していた。また、舌状地形における潜水調査による産状観察及び海底から採取した岩石の記載岩石学的特徴から、さらに、舌状地形を構成する岩石は、標高 60m 以上分布する根府川中部溶岩流グループ起源の岩石により構成されていることが明らかになった。よって、本地域に分布する舌状地形は地すべり起源だと思われ、海岸付近の急斜面上で発生した地すべりにより標高 60m 以上分布する根府川溶岩流片を巻き込み、海中に没した崩壊堆積物が舌状地形を形成したと考えられる。

キーワード: 根府川, 地滑り, 舌状地形

Keywords: Nebukawa, landslide, lobe structure